

## 第2学年 学級活動(1) 学習指導略案

教科等	学級活動	議題	もっとなかよしづくり(集会をしよう)	本時	全1時間扱いの1時間目
学級	2年2組	授業者		教室等	2階 2年2組教室

### <本時の指導>

<b>&lt;本時のねらい&gt;</b> ・学級生活をより楽しいものにするため、みんなで仲良く楽しむための工夫を考える。 ・自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしながら、よりよい意見をクラス全体でまとめていく。	
導入	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 司会台本に沿って、話し合いを始める。【発見】 (1) はじめの言葉 (2) 司会グループの紹介 (3) 議題・提案理由の確認</p> <p>【議題】 もっとなかよしすごろく集会をしよう</p> <p>【提案理由】 今までの集会や行事では、工夫を重ねて笑顔がたくさん増えました。今度の集会ではオリジナル人間すごろくを作って、みんな仲良く楽しめば忘れられない思い出ができて、クラス目標の<b>なかま</b>にもっと近づけると思ったからです。</p> <p>【クラス目標】 たすけあって<b>な</b>かよく <b>な</b>んがえを出しあって教えあう ルールを<b>ま</b>もる</p>
	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□学級会の形(コの字)にして話し合わせる。 ※場の構造化</p> <p>□事前に司会グループと話し合いの流れを確認しておく。</p> <p>□事前に子供たちの意見をアンケートで出させ司会グループと一緒に意見を集約し、短冊にまとめておく。 ※視覚化・焦点化</p> <p>○話題設定の工夫 学級アンケート「みんなでやりたい作りたい解決したいこと」の結果と、これまでの集会活動の振り返りを生かし、司会グループと担任とで選定したものを議題とする。また「どのようにするか」や「工夫」を話し合うことで実際に活動するイメージを共有し、より意欲をもって実践に入れるようにした。</p>
展開	<p>2. 出された意見をもとに比べ合う。【対話】【表現】</p> <p>(1) 話し合いのめあての確認 (2) 決まっていることの確認 ・時間→2月〇日、〇時間目 ・場所→体育館 ・やること→人間すごろく ・グループで取り組む。 ・マスはジャンルごとにグループが担当して書く。 ・マスの工夫は1つずつに絞る。</p> <p>(3) 意見を比べ合う <u>話し合うこと</u> 「もっとなかよくなる工夫」 ・マスのくふう 体を動かす系 C: 手をつなぎながら C: いっしょの動き クイズ系 C: 答えをグループで考える</p> <p>3. 比べ合った意見をもとにまとめ、決定する。【決定】</p> <p>4. 決まったことを発表する。</p>
	<p>□大型テレビに話し合い活動の流れを提示する。自分の考えを書いたワークシートを手元に置き、「比べ合う」の段階からそれに沿って進める。 ※視覚化・共有化・ルールの明確化</p> <p>○話し合いの話題の提示 話題「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えの良いところを伝えよう」、「くわしく知りたいことを質問しよう」を提示する。</p> <p>○小集団での交流活動の設定 意図的にグルーピングされた小集団で意見交流や練り上げを行う。</p> <p>○交流の目的と視点の明確化 考えに自信をもったり、よりよい工夫を生み出したりするために交流を図る。そして一緒に仲良く楽しめるものかどうか考えながら聞くという視点を与える。</p> <p>□以下のようなときは、助言する。 ・板書(短冊)の整理 ・児童の伝え方が不十分な時 ・話し合い活動が混乱した時 ・話し合いのルールが守れていない時 ・金銭、健康、安全面に關すること</p> <p>□司会グループや、学級目標・提案理由など観点ごとに頑張った児童を相互評価させる。 ※クラス内の理解促進 ☆マスの内容や仲良く楽しむための工夫などを具体的に発言している。</p>

終末	<p>5. 話し合いを振り返る。 (1) 観点ごとに頑張った友達の発表をする。 (2) 先生の話(終末の助言)を聞き、頑張ったことと課題を知る。 ・司会グループの取り組みについて ・前回の学級会に比べてよかったこと ・次回の学級会に向けての課題 ・提案者の思いを大切にしながら話し合ったこと ・今後の見通しや実践に向けての意欲付け</p>	<p>□記録をもとに、名前を挙げて称賛し、学級全体の実践への意欲が高まるように終末の助言を行う。 ※クラス内の理解促進 ☆これまでの話し合い活動の経験を生かして、話し合いの進め方を理解している。</p>
----	---	---

### 【板書計画】

★ 意見ありがどうコーナー

☆ 6 5 4 3 2 1

そのほかのくふう(いくつでも)

☆ 1 チーム名を考える

☆ 2 アイコロをいっしょにつくる

☆ 3 そろって言う

☆ 4 クイズタイプ

☆ 5 一組にかなげいするないう

☆ 1 手をつなぎながら

2 いっしょの動き

3 そろって言う

4 クイズタイプ

5 一組にかなげいするないう

話しあうこと①

もっとなかよくなるくふう(1つずつ)

話しあいのめあて

○ばん

きまっていること

いっしょ

あそび

だいたい クラス会き

きだい もっとなかよしすごろくしゅう会をしよう

ていあんりゆう(話し合う理由)

今までの集会やきょうじでは、くふうをかさねて笑顔がたくさんふえました。今どの集会ではオリジナル人間すごろくを作って、みんななかよく楽しめば、わすれられない思い出ができて、クラス目標の**なかま**にもっと近づけると思ったから。

### 【研究主題にせまる手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

アンケート「みんなでやってみたいこと・解決したいこと」を議題案とし、司会グループと担任とで選び、議題の形につなげる。その際には、時期や必要性、児童が興味・関心をもって話し合えるものを意識する。また「何をするか」を事前に整理、集約しておくことで、本時は「どのようにするか」を話し合うところから始める。そして内容や工夫を具体的に考え、話し合い、実践の際のイメージを共有しやすくすることで、意欲がより高まり事後の活動にも生きると考えた。

話し合いの話題の提示

「友達の考えを受け止めよう」「友達の考えの良いところを伝えよう」「くわしく知りたいことを質問しよう」の話題カードを提示し、自信をもって発言したり、意見を受け入れたりしながら交流させる。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

ペアやグループ(3~4人)の学び合いで、友達の考えを聞く、自分の考えを話すことに慣れさせ、互いの考えの似たところや違い、良さに気付ける児童を増やしたい。

交流の目的と視点の明確化

「意見のやり取りを通して、考えに自信をもったり、よりよい工夫を生み出したりする」ことを目的とし、「提案理由の『みんなが仲良く楽しむこと』につながっているか」という視点で交流させる。